

庄内の農作業の^{うっ}遷り変わり



田植え編

50 年前頃の田植え

約半世紀前の1970年頃までの農作業は、田植えや稲刈りは全て人力の作業だった。現在、そのほとんどが機械による農作業に様変わりした。

今回は田植え作業の変遷を、遊佐町のある農家を例に紹介する。

1970年頃の田植えは手で一株ずつ植えて、朝6時から夕方6時までの大変な作業だった。

農家だけでは人手が足りないの



で、近所の農家5軒と非農家5軒約

25人が結集し共同で行っていた。

計12haの水田を5月10日頃から5月末までほぼ毎日作業し、10a当りの作業量は約2.5人。主に女性が植え付けを、男性が根取りや運搬、型付け等の雑用を、子供が小手打ち（苗撒き）と住民全員での作業であった。

男性があまり植え付けをしなかったのは、不器用なうえに辛抱強さに欠けていたとの話も聞いた。

このような田植えは、1975年頃のほ場整備工事頃まで続いた。





さなぶり：田植えが終わったお祝いの集合写真。長い重労働からの開放感にあふれる笑顔

25 年前頃の田植え

ほ場整備工事により30aの綺麗な区画に整理された水田。

乗用4条植えの田植え機で夫婦2人での作業により10a当りの作業は3時間程度で、3haの田植えは3日で終わった。

現代の田植え

長年農業を担った夫婦は引退し、息子は農業を継がずに、農作業は全て委託している。最新の田植え機での作業は10a当りわずか30分で完了するようになった。

